

平成 28 年 6 月 29 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 28 年 6 月 29 日 (水曜日)

午後 2 時 45 分から午後 4 時 05 分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席委員

教育長 高橋 譲 委 員 大橋 岑生 委 員 羽賀 友信
委 員 青柳 由美子 委 員 大久保 真紀

4 職務のため出席した者

教育部長	若月 和浩	子ども未来部長	波多 文子
教育部次長	金澤 俊道	教育総務課長	武樋 正隆
教育施設課長	中村 仁	学務課長	茂田井裕子
学校教育課長	竹内 正浩	子ども家庭課長	大矢 芳彦
保育課長	大野 宏	中央公民館長	水島 幸枝
中央図書館長	金垣 孝二	科学博物館長補佐	山田あゆみ
学校教育課主幹兼管理指導主事	宮 宏之	学校教育課主幹兼管理指導主事	高橋 和久
学校教育課主幹兼管理指導主事	柳沢 学	学校教育課指導主事	古川 真哉
学校教育課企画推進係	大塚 隆行		

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	星野 麻美	教育総務課庶務係長	佐藤 裕
教育総務課庶務係	清水 晶子	学校教育課企画推進係長	木村 和哉

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 33 号	附属機関委員の委嘱について

7 会議の経過

(高橋教育長) これより教育委員会 6 月定例会を開会する。

◇日程第 1 会議録署名委員について

(高橋教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 19 条第 2 項の規定により、羽賀委員及び大久保委員を指名する。

◇日程第 2 議案第 33 号 附属機関委員の委嘱について

(高橋教育長) 日程第 2 議案第 33 号 附属機関委員の委嘱について 事務局の説明を求める。

(武樋教育総務課長) 教育委員会の 2 つの附属機関の委員を委嘱するものである。まず、長岡市子ども・子育て会議委員についてである。20 名の委員構成になっており、関係団体の代表および公募委員で構成している。公募委員 4 人を含む新任が 12 名、再任が 8 名である。委嘱期間は平成 28 年 7 月 1 日から平成 30 年 6 月 30 日までである。続いて、長岡市図書館協議会委員についてである。こちらは 10 名の委員で構成しており、関係団体の代表あるいは学識経験者、地域推薦、公募委員で構成している。公募 2 名を含む新任が 4 名、再任が 6 名である。委嘱期間は平成 28 年 7 月 1 日から平成 30 年 6 月 30 日までである。

(高橋教育長) 質疑に入る前に、長岡市子ども・子育て会議の内容や長岡市図書館協議会の活動について説明をしてもらいたい。

(大矢子ども家庭課長) 子ども・子育て会議については、子ども子育て支援法に基

づき各自治体に設置するものである。平成 26 年度から設けられた会議で、委員の任期は 2 年間であるので、この 6 月末で任期が終わり新たに委嘱するものである。会議の具体的な検討内容について、今年度は子育て支援の施策についてと、もう一点は保育園の定員と再配置ということを主な検討議題とし、年 3 回会議を開催したいと考えている。また、子ども・子育て会議の委員のほかに専門的な研究や審査をするために部会を設けることができるので、部会を設けてそれぞれ専門的な検討を行っていく予定である。

(金垣中央図書館長) 長岡市図書館協議会は、図書館法および長岡市図書館条例に基づいて設置している機関である。協議会の役割としては、館長が諮問する事項に対しての意見を言うことと、図書館の運営サービスについての意見を言うことである。協議会に行ってもらいたい主なものとして、長岡市の図書館が毎年、活動評価という評価をしているが、その評価の項目を確認をしてもらったうえで、年度末に図書館が行った一次評価に基づいて二次評価をするというのが大きな仕事となっている。そのほかに、図書館に自動販売機や飲食コーナーを設けるなどの事例について意見をいただくといった活動を行ってきているものである。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(高橋教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

(高橋教育長) 以上をもって、本日の議案の審議については終了した。

(高橋教育長) 続いて、協議報告事項に移る。最初に 6 月議会における教育委員会関係の質問事項について事務局の説明を求める。

(若月教育部長) 平成 28 年 6 月議会本会議での一般質問について説明する。最初に田中茂樹議員からの質問である。田中議員は、長岡市総合計画の中にある多文化共生社会の推進について関心をもたれて質問をされ、学校においては、和文化教育、いわゆる日本や地域の伝統や文化を学ぶ教育と国際理解教育は両輪であるという

考えに基づき、長岡市ではどんな取組をしているか伺いたいという質問であった。長岡市では多くの小中学校で、各教科の中でもいわゆる和文化教育に取り組んでおり、「まちの先生」を活用し、地域でそういった活動をしている方々から日本や地域の伝統・文化を学ぶ教育をしている。併せて国際理解教育についても従前から取り組んでおり、今後も他国の文化を尊重し、日本や故郷のよさを発信できる子どもたちの育成に力を注いでいくと答えた。次に中村耕一議員からの質問である。今回の熊本地震で学校施設も被害が出ており、窓ガラスが飛散したため避難所として使えなかったという事例があったため、学校の耐震化の状況と窓ガラスの飛散防止対策について伺いたいという質問である。長岡市としては、構造体や屋内運動場等の吊り天井の耐震化は平成 27 年度で完了している。引き続き、5校の校舎内の吊り天井の耐震化を今年度中に完了させる。屋内運動場は既に多くの学校で強化ガラスなどを使用しており、たとえ割れたとしても鋭利な形には割れないようになっている。未対策の箇所は、今後、大規模改造工事等の中で窓ガラス飛散防止対策を検討していきたいと答えた。また、国としても熊本地震を受けて何らかの対策をする方向性があり、今後の国の方針を注視しながら対応していきたいと考えている。次に加藤尚登議員からの質問である。家庭教育についてなど4つ質問があり、一つ目の質問、米百俵の精神を生かした教育については、従来どおり進めていくと答えた。二つ目の質問、熱中！感動！夢づくり教育のこれまでの成果に対する評価については、3月の文教福祉委員会等で答えた内容と同様に、「授業が分かる、できると感じる」「長岡が好き」という児童生徒の割合の増加や各学校が特色を生かした教育活動を展開するといった成果があったと高く評価していると答えた。三つ目の質問、家庭教育機能の低下対策については、不登校と家庭教育機能の低下を結びつけた切り口からの質問であった。まず、不登校児童・生徒数の推移と解決策の見解について伺いたいとの質問に対して、当市の不登校の現状と、不登校の原因は多くの要因が複雑に絡み合っているため、児童生徒一人ひとりの状況を把握し、実態に即した具体策を講じることが重要と捉えて実施していると答えた。次の、訪問型教育相談機能の強化が必要と考えるが見解を伺いたいとの質問に対しては、学校は日頃から児童生徒の状況を把握し、教育相談や家庭訪問を実施するなどきめ細かく支援している。また、必要に応じて子どもふれあいサポートチームとも連携しており、引き

続きしっかり対応していくと答えた。次の、地域と連携した家庭教育支援チームの立ち上げが必要と考えるが見解を伺いたいとの質問に対しては、平成 14 年度から子どもふれあいサポート事業を実施しており、各中学校区の地区サポートチームが地域と連携して挨拶運動や登下校の見守りなど地区の実情に応じた活動に取り組み、家庭教育支援チームの役割を担っていると答えた。最後の、新教育委員会制度移行にあたり教育長の所信を伺いたいという質問に対しては、教育大綱、教育振興基本計画などに基づき、郷土愛の醸成、長岡版ネウボラの推進、熱中！感動！夢づくり教育の充実などに取り組んでいくと答えた。

(波多子ども未来部長) 続いて、笠井則雄議員からの子どもの貧困についての質問である。一つ目の、子どもの貧困対策の重要性に対する市の認識について伺いたいという質問については、子どもの健やかな成長のために必要な環境の整備や、教育の機会均等を図る子どもの貧困対策は、極めて重要な課題であると認識していると答えた。二つ目の、子どもの貧困対策に特化した計画を策定してはどうかという質問については、既に長岡市が子ども・子育て会議で策定した、「長岡市子育て・育ち“あい”プラン」の中に、「子どもの貧困対策の推進」の項目を設け、これを長岡市の貧困対策の計画として位置づけていると答えた。三つ目に、市役所内に組織横断的な「子ども貧困対策チーム」を立ち上げたらどうかの提案があったが、これについても「子ども・子育て会議」の中で、既に教育委員会や福祉保健部など関係部局が連携し、組織横断的な体制で子どもの貧困対策の取組を行っていると答えた。

(若月教育部長) 次に、スクールソーシャルワーカーの活用について質問があったが、本市では既に中越教育事務所にいる 4 人のスクールソーシャルワーカーをサポートチームの一員として活用し、福祉や医療的支援の必要な家庭に働きかけ、関係機関に繋げるなどしていると答えた。次に、給付型奨学金制度の創設などについて質問があった。本年度導入された県Uターン若者転職者に対する奨学金返還支援事業についてと、市独自の給付型奨学金の創設が必要と考えるがどうかという質問である。これに対して、県Uターン促進奨学金返還支援助成金制度の概要を答え、市独自の給付型奨学金の創設については引き続き検討していくが、国の「ニッポン一億総活躍プラン」の中で創設するという方向で検討していくとのことから、その推

移を見ながら意見を言っていくと答えた。

(波多子ども未来部長) 続いて、子どもの貧困対策をまとめた小冊子を発行してはどうかという質問に対して、子育てガイドブックやスマートフォン等で市の子育て情報を閲覧できる「子育てナビ」の中で、既に子どもの貧困対策の周知を行っていると答えた。最後に、長岡市における貧困実態調査が必要ではないかとの質問に対して、国が示している子どもの貧困率と長岡市が毎年実施している就学援助の受給者の割合がほぼ近い数値であることから、これに基づき必要な対策をとっていくと答えた。次に、服部耕一議員から保育に関する問題について三つ質問があった。一つ目は、保育園の入園状況についての質問である。年度途中に入園を希望しても可能かどうか、また、年度途中では希望する園に入園できない実態があるとしたら改善すべきではないかという質問に対し、年度途中での受け入れは可能だが、希望園への入園はしばらく状況は認識しており、今後とも新規施設の整備等による受け皿の確保を図っていくと答えた。二つ目は、保育士の処遇改善についての質問である。特に、公立保育園の非正規職員の待遇を改善すべきではないか、正規職員化をはかるべきではないかということから、正規職員と非正規職員の比率や正規職員並みに勤務する非正規職員の比率について伺いたいという質問である。正規職員と非常勤職員の比率は4：6、正規職員に近い職務内容に従事している非常勤職員の割合が5%と答えた上で、非常勤職員もチャレンジできる任期付き正規職員の採用を実施していると答えた。三つ目は、保育の質確保と子育て支援員について、小規模保育施設B型を導入する理由について伺いたいという質問である。小規模保育施設とは、新しい子ども・子育て支援制度下でスタートしたもので、0、1、2、3歳児未満を対象とした保育施設である。それがA型、B型、C型と三つあり、A型は全員保育士の資格が必要で、B型は2分の1以上保育士がいればよく半分は保育士の資格がなくてもよい、C型は保育士資格が不要となっている。保育の質という観点から、長岡市が今年度からB型を導入したがどうかという質問である。長岡市のB型は単独のB型ではなく、認可保育園の中に併設するという形で行っており、認可保育園のベテランの保育園長を始め職員の管理下の中で行うという場合に限ってB型を認可したものである。安易なB型の拡大やC型の新設はすべきではないと思うが市の考えはどうかという質問に対しては、認可保育園の中でのB型、またはA型の認

可を行い、C型の認可については考えていないと答えた。次に、文教福祉委員会での質問事項に移る。池田明弘議員から双葉寮についての質問があった。まず、寮生の大学・専修学校への進学率、また、就労状況についての質問について、進学率は約 21%、その他は就労していると答えた。二番目の進路指導についての質問に対し、保護者と学校が連携しながらやっており、特に福利厚生、住み込みで働けるようなところ等を指導していると答えた。三番目の、国の自立支援資金貸付事業制度の活用状況はどうかという質問について、これは都道府県が実施主体になり、今のところ新潟県はこの制度を立ち上げておらず検討中とのことであり、情報収集しながら、効果的な利用につなげていきたいと答えた。四番目、五番目の、退寮生へのアフターケアについての質問に対して、アフターケア事業は新潟県では実施していないが、双葉寮は、国の人員配置基準以上に児童指導員などの直接処遇職員を手厚く配置し、しっかりと対応していると答えた。

(若月教育部長) 次に、酒井正春議員から火焰型土器モニュメント等の活用についての質問があった。日本遺産の認定や大英博物館での火焰型土器展示等の経過を伺うとの質問に対し、5市町で構成する信濃川火焰街道連携協議会で申請していた「なんだ、コレは！信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」が4月に日本遺産に認定され、また、10月から3か年、大英博物館に火焰型土器等4点を展示し、関連式典等を在英国日本大使館で行うと答えた。二つ目に、馬高縄文館では火焰土器発見80周年記念「火炎土器展」が7月から開催されるが、この機会に火焰型土器を市民に広くアピールしてはどうかとの質問に対し、記念展示会のほか、体験学習やノベルティグッズの作成など多彩な普及活動を実施する。市政だよりやホームページ等で広く発信しているが、この機会に更なる広報に努めていくと答えた。三つ目に、長岡市内には火焰型土器のモニュメント像が数多くあるが、これらに看板等を併設するなどして、火焰型土器の発信に活用することはできないか、との質問に対し、火焰型土器のモニュメント像は市内に13か所16個あるが、野外設置の像には看板等は併設しにくいものが多いため、解説マップ等を作成し周知を図ることとし、信濃川火焰街道連絡協議会とも連携し、日本遺産認定を積極的にアピールしていくと答えた。

(波多子ども未来部長) 次に、関充夫議員から保育園の今後のあり方についての質

問があった。一つ目、民営化の進捗状況について問題はないかとの質問に対して、現在、川崎保育園と日越保育園で民営化に向け一年をかけて引継保育を行っているが、それについては全く問題はないと答えた。今後の民営化はどのようにしていくかとの質問に対し、現在の2園の状況を検証しながら検討していくと答えた。三つ目、民営化の利点をどうとらえているか、との質問に対し、民間のノウハウや民間活力を活かして、特色ある保育が展開でき、よりよい保育環境を提供できると答えた。四つ目、公立の統廃合も視野にあるのかとの質問に対し、今後の児童数を考慮しながら、公立私立にこだわらず長岡市全体で保育園の配置を考え、子どもたちのためによい環境を一番に考えていきたいと答えた。最後に、公立保育園の役割についての質問に対し、民間は採算性を考えなければいけないが、そういった点から民間が参入できない部分であっても公立が責任を持って全ての子どもに保育をしていくセーフティネットの役割を担っていると答えた。続いての関充夫議員の質問は、中高生の放課後の居場所についての質問であった。交通の利便性の高いまちなかに、中高生の占用できる場所が必要と考えるがどうかとの質問に対し、長岡市としては、アオーレ長岡やまちなかキャンパスなどが、中高生から活発に利用されており、居場所として定着してきていると認識している。青少年文化センターでは、2階会議室を解放したり、多目的ホールにスポーツミラーを設置するなど、中高生の新たな居場所として提供する取組も行っていると答えた。次に、東京都武蔵野市の、図書館に中高生の居場所機能などが併設された施設「ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス」を視察した感想についての質問に対し、駅前に立地し、複数の機能が詰まった素晴らしい施設であり、施設のコンセプトは、アオーレ長岡等のまちなかの公共施設と同じと感じたと答えた。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(大久保委員) 関充夫議員の質問、中高生の放課後の居場所について、まちなかにあるのは良いことだが、支所地域の中学生がまちなかまで来るのはなかなか難しいので、場所だけでなく情報を提供してはどうか。ボランティアなど何かやりたいと思ったときにまちなかまで来なくてもインターネット等を使って情報を得ることができるようなものを発信できたら、地理的に遠い子どもたちも居場所の恩恵が受けられるのではないか。

(波多子ども未来部長) 支所地域について関充夫議員からもそういった要望があり、こちらとしても何か情報発信ができるよう考えている。

(羽賀委員) 笠井則雄議員の質問について、子どもの貧困対策の周知にあたり、子育てガイドブックや「子育てナビ」で周知を行っているとのことだが、母親が情報収集できる媒体として冊子とスマートフォンのどちらが有効か教育委員会として比率を把握しているのか。

(波多子ども未来部長) 「子育てナビ」は今年の3月から始めたばかりで、まだ検証はできていないが、ダウンロード数、閲覧数は把握している。紙媒体については母子手帳の交付時に全ての方に渡しているが、今後も折に触れて情報提供していく。

(高橋教育長) 情報提供については、確実にその情報が対象者に届くよう教育委員会から直接アプローチをしていく必要がある。就学援助の周知についてはどうか。

(茂田井学務課長) 就学援助の手続きについては漏れがないよう、全児童に配付している。新入学の際には説明資料と申請書も一緒に配付している。そのほか、市政だよりへ掲載し、学校においてはPTA総会時に校長から周知してもらったり、学校だよりに申請時期を掲載してもらったりするなどして周知に努めている。

(高橋教育長) 他に質疑、意見はないか。

(高橋教育長) 質疑、意見なしと認める。次に、教育委員会関係工事等の入札状況について、事務局の説明を求める。

(中村教育施設課長) 教育委員会関係工事等の入札状況について説明する。上組小学校、堤岡中学校、高等総合支援学校の3校に関わる5件の工事である。いずれも予定価格が1億5千万円以上の工事であり、契約にあたり議会の議決が必要となるため、6月議会に議案として提出し、6月27日の議会最終日に議決されたものである。最初に各学校の工事について概要を説明する。まず、上組小学校の工事概要であるが、現在少しずつ児童数が増えており今後も増加が見込めることと、校舎、屋内運動場は昭和46年から49年にかけて竣工した建物であり、平成19年3月にはプレハブ校舎を建てたが老朽化が進んでいることから、3階建ての校舎を増築するとともに、併せて既存の校舎、屋内運動場などの大規模改造工事を行うものである。次に、堤岡中学校の工事概要であるが、こちらも生徒数が今後も増加する見込みであり、福島江側のグラウンドに鉄筋コンクリート3階建ての校舎を増築するほ

か、既存の校舎1階部分のピロティを普通教室1教室に改修するものである。次に、高等総合支援学校の工事概要であるが、こちらの生徒数も増加しており、市道を挟んだ北側の用地に屋内運動場を建設するものである。屋内運動場は鉄骨造3階建てであり、1階が駐車場、2階がアリーナ、3階がトレーニングスペース、ランニングコースなどとなっている。また、2階のアリーナと既存の校舎の2階を渡り廊下で接続するものである。各工事の入札状況について、上組小学校校舎増築・大規模改造工事は建築工事であり、施工者はダイエー・中元・松井の3社の共同企業体、契約工期は平成31年3月31日まで、契約金額は1,247,859,000円である。次に、上組小学校校舎増築・大規模改造電気設備工事について、施工者は長岡電業・早川電設・匠電社の3社の共同企業体で、契約工期は建築工事と同じく平成31年3月31日まで、契約金額は221,400,000円である。続いて上組小学校校舎増築・大規模改造機械設備工事について、施工者は新日工業・トヨウ・鶴城工業所の3社の共同企業体であり、契約工期はこちらも同じ平成31年3月31日まで、契約金額は253,800,000円である。次に、堤岡中学校校舎増築工事についてである。建築工事になり、施工者は渡長・池田・長岡土建の3社の共同企業体で、契約工期は平成29年7月31日まで、契約金額は414,180,000円である。なお、この工事に付帯する電気設備工事及び機械設備工事については議会議決不要のため、現在入札手続き中である。最後に、高等総合支援学校屋内運動場建設工事についてである。こちらも建築工事である。施工者は中越・共栄・永井の3社の共同企業体で、契約工期は平成29年9月15日まで、契約金額は990,036,000円である。こちらも付帯する電気設備工事及び機械設備工事については議会議決不要のため、現在入札手続きを行っているところである。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(若月教育部長) 補足するが、堤岡中学校は校舎増築工事が終わった後に、既存の校舎の大規模改造工事を行う。既存校舎の改造にあたっては引っ越しが必要なため、校舎を増築してから大規模改造工事に入ることとなっている。

(高橋教育長) いずれも工期が年度をまたぐので、子どもたちが授業や学校活動をする中での工事となる。特に安全面について施工者に配慮してもらうよう改めて呼びかけてもらいたい。

(高橋教育長) 他に質疑、意見はあるか。

(高橋教育長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成 28 年度 熱中！感動！夢づくり教育「地域・子ども元気塾助成事業」について、事務局の説明を求める。

(竹内学校教育課長) 平成 28 年度 熱中！感動！夢づくり教育「地域・子ども元気塾助成事業」について、担当者が説明する。

(大塚学校教育課企画推進係主査) 平成 28 年度 熱中！感動！夢づくり教育「地域・子ども元気塾助成事業」の審査結果を報告する。本事業は、市内の小中学生に対し、熱中・感動体験を伴う活動を提供する事業を育成・支援するため、その団体が行う事業に要する経費の 80%、20 万円を上限に助成金を交付するものである。アオーレ長岡の情報ラウンジ、各支所地域振興課、市内の体育館、公民館、コミュニティセンター、市民協働センター等に約 900 枚のチラシを配布し、市政だより、市のホームページでも広報を行った結果、今年度は、自然・科学・社会・文化・芸術の分野で 2 団体、スポーツ・レクリエーション分野で 6 団体から申請があった。この事業は 3 回まで継続して助成することができる事業であるが、昨年度から継続して申請した団体は、NPO 法人星空ファクトリー、エキップフリースタイルスキークラブ、地域にバレエ・ダンスアートを育てる会、長岡市キンボールスポーツ連盟の計 4 団体であった。有識者を含む 4 名の審査員が 5 月 28 日にさいわいプラザにおいて公開プレゼンテーション形式で審査を行った。審査の結果、8 団体すべての事業を助成対象として決定し、合計金額 1,549,000 円を助成することとなった。今年度もさまざまな事業を採択したが、採択された団体の事業に、多くの小中学生が参加できるように、団体が行う事業の周知の方法などを団体と協力しながら進めていきたい。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(羽賀委員) 申請が 8 団体あり、すべての団体を採択されたことはよいと思うが、申請額に対して交付額を減らしたことはあったのか、それとも申請額どおりに交付しているのか伺いたい。

(大塚学校教育課企画推進係主査) 申請額に対して交付額を削減した団体としては、NPO 法人星空ファクトリーがある。こちらは、申請した内容の中に一部助成対象として認められない経費があったため交付額を削減したが、そのほかの団体については申請額どおりに交付している。

(青柳委員) 3回まで継続して申請ができるとのことだが、NPO法人星空ファクトリーについてはかなり前から申請していると思うが、何年間か経つとまた再応募できるような条件があるのか。

(大塚学校教育課企画推進係主査) 平成27年度に制度を改正し、団体の支援から団体が行う事業の育成支援へ制度目的を切り替えている。そのため、平成27年度から事業が再スタートということになり、それまでに3回継続して助成を受けた団体についてもそこで一度リセットされ、平成27年度から助成を受けることができるようになっている。

(大橋委員) それぞれの団体が成果を発表する場や、それぞれの団体が主催する会などは周知されているのか。

(竹内学校教育課長) それぞれの団体が実施する事業のPRについて、各学校への周知協力は行っている。成果を発表する場は設けていないので今後検討したい。

(高橋教育長) 助成団体が成果を公表することもあるだろうし、交付金に対する実績報告のような形でまとめたとしたらどう公表していくか、あるいは決算審査特別委員会の中でどのような形で事業の成果として説明していくのか、いろいろな周知方法があるので取り入れてほしい。

(高橋教育長) 他に質疑、意見はないか。

(高橋教育長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成28年度「熱中！感動！夢づくり教育「学校・子どもかがやき塾 夢企画事業」」について、事務局の説明を求める。

(竹内学校教育課長) 平成28年度「熱中！感動！夢づくり教育「学校・子どもかがやき塾 夢企画事業」」について、担当者が報告する。

(古川学校教育課指導主事) 平成28年度「熱中！感動！夢づくり教育「学校・子どもかがやき塾 夢企画事業」」について報告する。学校・子どもかがやき塾について、全ての市立学校に1校当たり平均40万円の学校や校長への裁量予算を配当し、子どものやる気や学ぶ意欲を引き出すために、各学校がそれぞれ特色ある教育活動を実施することができるようにする財政支援である。さらにその配当予算とは別に、夢企画事業として、夢のある取組を企画した学校には企画の内容を審査したうえで、上限を50万円程度とした基準額を加算配当し、学校独自の教育活動を支援してい

くものである。今年度の審査について、例えば、ボランティアや社会貢献活動をさらに発展させて教育効果を高める企画や、教育効果を高めるために高等教育機関やNPO等との連携により活動する企画など、5つの観点を基に企画を審査した。審査の方法については、外部審査員2名から協力してもらい一次審査を実施し、それを踏まえて教育委員会内で二次審査を行い採択校を決定した。今年度の採択校数は、小学校で応募42校のうち採択校は38校で配当額は7,763,700円、中学校は応募14校のうち採択校は12校で配当額は3,083,840円である。なお、採択から外れた小学校4校、中学校2校については、企画が事業の目的にそぐわなかったため、各学校と協議し今年度の夢企画事業としては採択を見送った。採択校の取組状況について、今年度初めて夢企画に取り組む学校が7校増えた。また、2年目以降も継続する学校については15校あり、昨年度からの活動の広がりや発展に期待をしている。

(高橋教育長) 質疑・意見はあるか。

(大久保委員) 学校から保護者にこういった活動の報告はされているのか。

(古川学校教育課指導主事) 学校だより等を通じて取組については報告されている。

(大橋委員) 学校数から言えば、夢企画事業に参加していない学校もかなりあるのではないかと。積極的に関わっている学校もある反面、消極的な学校もあるようだが、こういった状況を教育委員会で把握しているのかどうか。

(古川学校教育課指導主事) この事業は平成18年度から実施しているが、まだ何も応募してきていない学校が中学校であと2校というところまで来た。それ以外の学校は1回は応募してきている。ただ、この夢企画は基本2年、最長は4年までの継続企画であり、ここ2、3年継続して取り組んだ学校は今年度は応募しないで、学校で企画を練り直して来年度また再チャレンジするという学校もある。

(高橋教育長) 他に、質疑、意見はないか。

(高橋教育長) 質疑、意見なしと認める。次に、第1回「子育てあんしんの避難所」検討プロジェクトの実施状況について、事務局の説明を求める。

(大矢子ども家庭課長) まず、プロジェクトの設置について、本プロジェクトはこのたびの熊本地震における母子避難所開設時の周知の難しさなどを教訓に、長岡市における災害時の子育て世代を支援する拠点についての検討を官民協働で行うも

のである。本市では、全地域に「子育ての駅」を配備し、市民と協働で運営していること、日ごろから子育て世代に親しまれ、様々な悩みに対応する人的ネットワークも有していることから、有事の際にそのノウハウや資源を有効に活用することが可能である。そこで、子育て支援に携わる専門家やNPOなどとともに、具体的な防災機能の強化についての検討を重ね、新たな付加価値を「子育ての駅」に創出することで、地域に根差した「子育てあんしんの避難所」の開設につなげていくものである。プロジェクトメンバーは、主任児童委員、母子保健推進員、助産師、多世代交流館になニーナ、長岡にこっとクラブ、中越防災安全推進機構、子育ての駅運営委員、長岡市社会福祉協議会、長岡市関係課である。去る6月20日に1回目の検討をしたところである。検討内容については、チーム中越の佐竹直子さんから熊本で学んだことについて報告いただき、長岡版ネウボラについての説明を行い、妊婦・乳児がいる場合の避難所のニーズについてワークショップを行った。今後については、それぞれの立場での役割や必要な機能などを検討し、それらをまとめたうえで「子育ての駅」の避難所化を具体的に進めていきたい。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(高橋教育長) 質疑、意見なしと認める。次に、附属機関会議報告について、事務局の説明を求める。

(水島中央公民館長) 平成28年度第1回社会教育委員会、公民館運営審議会の会議報告をする。この会は、社会教育法、長岡市社会教育委員設置条例、長岡市公民館条例に基づいて設置しているものである。委員は20名、任期は2年であり、今回は改選期であった。会議内容は、正副委員長の選出、平成28年度の社会教育の基本方針および今年度の会議や研修会等の日程説明を行った。研修会は委員のみで行うものだけではなく、中越地区や県等の上部団体が主催する研修会にも積極的に参加する予定である。昨年度までは、教育委員会の各主要事業について説明を行っていたが、社会教育とは何か、社会教育委員の役割とは何かの理解を得るために時間を要するという意見があったため、中越教育事務所に講師を依頼し、「社会教育委員の役割について」と題した研修会を行った。会議やその後の意見交換の中で、コミュニティセンターと公民館の違いや社会教育委員として何を行うべきかということについて、積極的な意見交換が行われた。委員の改選により、各地域で活躍

する方々が委員となったため、今後の社会教育についてさらに検討し、報告していきたい。

(高橋教育長) 続いて栃尾美術館協議会についての報告を求める。

(金垣中央図書館長) 平成 28 年度第 1 回長岡市栃尾美術館協議会の会議報告をする。委員の任期は 2 年で、2 年目の第 1 回会議であった。平成 27 年度第 2 回栃尾美術館協議会報告、平成 27 年度後期事業報告、収集方針及び収集資料について、平成 28 年度事業計画について報告し、いずれも承認された。その後、開館 20 周年記念事業の成果及び課題を踏まえた今後の取組について協議を行った。昨年栃尾美術館が開館 20 周年を迎え、記念事業を実施した。その成果を報告しながら、今年度の事業について意見交換を行った。今後の取組として、普及活動の充実と地域と連携したパンフレットの作成を提案し、観覧者からのアンケート結果の活用や栃尾らしいものにして欲しいという意見が出た。アンケートについては、分析結果を活用していきたい。パンフレットについては栃尾観光協会、栃尾物産会とも連携し工夫していきたい。

(高橋教育長) 報告事項について何か意見はないか。

(高橋教育長) 意見なしと認める。

(高橋教育長) 催し案内や配布物について補足説明はないか。

(山田科学博物館長補佐) 科学博物館より 3 件催し物を案内する。初めに、本日の新潟日報に記事が掲載された「長岡藩主牧野家の至宝展」についてである。科学博物館企画展示室にて 7 月 3 日まで展示している。続いて、7 月 16 日から 9 月 4 日まで開催する特別展「火炎土器展」についてである。今年は火焰土器発見 80 周年の記念の年であり、様々な催しや関連行事を計画している。ノベルティグッズとして缶バッジを来館者に先着で配布している。夏休みには、手作りの土偶チケットを配布する予定である。新聞報道で先着 500 名とする報道があったが、来庁者が集中する可能性があるため、いくつかの期間に分けて配布することを検討しており、改めて周知を行う予定である。また、関連する催しも計画している。最後に、7 月 23 日から 9 月 25 日まで開催する「発掘！古代の長岡」についてである。科学博物館企画展示室で出土品等を展示したいと考えている。いずれの展示についてもぜひご覧いただきたい。

(水島中央公民館長) 「長岡市人権・同和教育研修会」を案内する。例年この時期に開催しているが、ぜひ参加して欲しい。

(金垣中央図書館長) 中央図書館から「教えて加来耕三先生！歴史っておもしろい？」「教えて！南極のひみつ」を案内する。また、「写真と資料で振り返る長岡市制施行 110 年のあゆみ展」は、7 月 23 日午前 11 時から開場式を開催する予定であるため、ぜひ出席いただきたい。また、その後も専門の解説会を行う予定のため、足を運んでいただきたい。

(大矢子ども家庭課長) 6 月議会における質問事項の報告の際にも説明したが、平成 28 年度版の子育てガイドを作成したため、配布する。母子健康手帳の配布時や、転入時等に配布をしている。妊娠から始まり、それぞれの年代別に情報を掲載している。笠井議員からの質問に関連した貧困に関する情報では、子どもの医療費助成・保育料・就学援助・ひとり親家庭の支援策等について掲載している。

(竹内学校教育課長) 学校教育課からお知らせする。まず、ながおかキッズ英語クラブについて、今年度からの事業であり、12 校で開始した。6 月 30 日に関原小学校の英語クラブ活動で、「英語でクッキング」を行うのでぜひご覧いただきたい。続いて、教育センターの管理職研修についてである。「みんなの学校」で著名な木村泰子氏を講師に招き、教育理念や教育者としてあるべき姿や志を学ぶ研修を 7 月 6 日に行う予定である。最後に、キャリア教育についてのパンフレットであるが、今後、職場体験学習が本格的に始まるため、キャリア教育の周知と各事業所に職場体験の流れを説明し、協力を依頼するために配布しているものである。

(高橋教育長) 質疑、質問はないか。

(高橋教育長) 他に報告事項や補足説明はないか。

(高橋教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員